近畿支部会報2019年11月号

毎年、台風に悩まされている日本列島です。地球温暖化の影響でしょうか？日本は四季のある国だと思っていましたが、気がつけば、暑いね！と、寒いね！の言葉しか出ていません。雨の降り方も違うように感じました。今年の台風 15 号･19 号は、河川の氾濫･決壊で、自然の脅威にさらされています。会員のみなさまの知り合いの方々はいかがでしたでしょうか？CNN のニュースでも取り上げられ、カナダのラグビーチームの選手たちが、すぐにでも自国に帰れるのに、災害地でのボランティアをされている映像を見ました。サーバスのトラベラーから、お見舞いのメールを何通かもらいました。心配してくれる友達が他の国に住んでいるのは、うれしいです。

ノーベル化学賞でリチウムイオン電池の実用化に大きく貢献した吉野彰･旭化成名誉フェローが、2 人の米大学研究者と一緒に選ばれました。スマートフォンをはじめとする情報端末機や電気自動車などの電源として広く使われ、モバイル社会を発展させた成果が評価されたそうです。私も、お世話になっていますので、このような評価はうれしいです。ご本人は、失敗をしないと成功しないと、おしゃっていました。努力が報われたものと思います。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1. 例会報告･････････････････････････････････	京都市 W.H
（議題討議）････････････	久御山町 A.K
2. トラベル報告････････････クロアチア、スロヴェニアの旅	交野市 K.K
東アジア会議	京都市 H.T
3. トラベラー受入れ報告･････日本に興味がある D さん	舞鶴市 K.Y
国際平和デーを祝う	京都市 H.T
ディホストしました	交野市 K.K
Servas in Japan	USA Dr.LS
4. お知らせとお願い･････････････････････････	支部長 A.K

1.例会報告

サーバス近畿支部例会報告（2019 年 10 月 13 日）

京都市 W.H

台風の接近で危ぶまれましたが、Ht さん、Mt さん、Tm さん、Wa さん、On さん、A さんご夫妻、Wh、そして本日の講師 Am さん、彼女が編集長兼発行者を務める「きらり」のデザインを担当されている会社「ブロス」の Nm さん、Ms さん、そして北陸東海支部より Tr さん、Os さんの計 14 名の参加で Ht さん宅にて行いました。

リーズナブルでとてもおいしいお弁当ではじまり、Am さんの「障害と共に楽しく生きる」と題した発達障害の講演に期待が高まりました。

一口に発達障害と言っても症状、行動は多様であり発達障害グレーゾーン、二次障害など多くの問題があるが故に支援と回りの理解が不可欠だと知りました。ご自分の体験を活かした講演であったからこそ深く理解できたと思います。今な

お障害と向き合っているAmさんの熱意ある活動が同じ苦しみを持つ人を一人でも多く救えることを願うばかりです。Msさんによる可愛いイラストの入った活動の一環である雑誌「きらり」を見せてもらったり、Trさん、Osさんからのおいしいお土産でお茶したりしながら、Amさんへの質問タイムは盛り上がりました。

初の試みでご参加いただいた北陸東海支部の方々にも満足いただき、今回の例会も心に残るものになったのではないでしょうか。

議題の討議　　（報告　A.K）

・総会について（A.K）

12月22日（日）17:00～19:00　**四季自然喰処 たちばな ヒルトンプラザ 大阪本店**

大阪市北区梅田1－8－16　ヒルトンプラザイースト B2

・Making Connections Project の募集について

期間は、二週間ぐらいで、KOKOCA（京都市国際交流会館）にて、日本語学習をする。サーバスホスト宅にスティ。次回の国内会議で提案する。

報告

・被災地支援（W.A）

2011年より支援活動をしている。湖南アルプスの川原で遊ぶことがとても楽しくうれしい。思い切り遊びました。来年は、お姉ちゃんも中学生になります。野菜もたくさん買って帰られました。

・日本モンゴル障がい児家族交流（H.T）

今まで日本とモンゴルが障がい児家族交流を行っていましたが、東アジア会議でモンゴルとの障がい児家族交流は韓国が引き継がれるように話し合われました。

2.トラベル報告

クロアチア、スロヴェニアの旅（2019年8月3日～8月21日）

Croatia ・ Slovenia

交野市　K.K

数年前、ニュージーランドのミルフォードサウンドでトレッキング旅行をした時に、出会った人からクロアチアのプリトヴィチェの話を聞き、（いつか行ってみたいな）と思っていました。今年は長い夏休みがとれたので、行き先はクロアチアに決めました。

8月3日～8月5日　Dubrovnikドブロブニク（Airbnb 泊）

クロアチアには20弱のホストしかいません。しかもみな首都ザグレブ周辺で、ディホストが主流です。クロアチアではぜひDubrovnikドブロブニクにも行きたかったので、Airbnb で宿を探して滞在しました。ドブロブニクは「アドリア海の真珠」と称えられるだけあって、オレンジ色の屋根が並ぶ旧市街は映画の世界そのもので、どこから見ても絵になる本当に美しい町でした。市街地から少し離れると、きれいなビーチもたくさんあり、アドリア海のきれいな海を堪能できました。ドブロブニク滞在中、隣国モンテネグロの Kotor コトルへも日帰り旅行に行きました。国境では、一人ひとりバスから降りて厳しい出入国手続きを

しなければならず、たいへん時間がかかりましたが、その価値が十分ある美しい中世の街でした。山に沿って一時間ほど城壁を登って行くと、頂上からは素晴らしい景色を見ることができました。

8月5日～8日　Sibenik シベニク（M 宅）

せっかくクロアチアに行くのだから、もう少しアドリア海の町を楽しみたいなぁと思っていたところ、クロアチアで唯一、ザグレブ以外の街に住むホストMが「本当は夏はホストを断っているんだけど…」と受け入れてくれました。旅行ガイドのMは、私の滞在中も日中はずっと仕事で忙しそうでしたが、夜の9時を過ぎると「シベニクを案内するよ！」と言って、あちこち連れて行ってくれるとても親切なホストでした。街歩きをしながら Sibenik シベニクの歴史を教えてもらったり、美味しい食事やお酒を楽しんだり、要塞でのコンサートにも連れて行ってくれもらいました。私が「海で泳ぐのが好き。クルカ国立公園にも行ってみたい」と話すと、自分の会社のツアーに潜り込ませてくれて、ボートで離島に行って静かなビーチで泳いだり、クルーズ船に乗って Krka クルカに行ったりもできました。特にクルカ国立公園はため息が出るほど素晴らしく、公園内には清流が流れあちこちに滝があり、美しい水と緑に心をわしづかみにされる感じで、いつまでもここを歩いていたいと思うほどでした。しかも日本では絶対ありえないことですが、大迫力の滝のすぐ下で泳ぐこともできたのです。忘れられない経験となりました。

8月8日～10日　Zagreb ザグレブ（B 宅）

次のホストは首都ザグレブに住む建築家 B で、18歳の双子のお母さんでした。これまでアドリア海沿いの街では、魚介類が豊富でイタリア料理に近い食事が多かったのですが、内陸部のザグレブでは、肉料理やパプリカを多く使った煮込み料理をよく食べました。汗をかきながら、家族みんなでザグレブの地元料理を楽しみました。ザグレブは、最近流行のインスタ映えを狙ってか、街のあちこちに写真映えしそうなおしゃれなセットがありました。物価も安く、安心して買い物や食べ歩きができました。ドブロブニク、シベニクもそうだったのですが、クロアチアはとても治安がよく、夜の12時を過ぎて女性が一人で街を歩いていても危険な感じが全くありません。（むしろ日本よりも安全なのでは？）と感じられるほど、治安がよく旅行しやすい国でした。

8月10日～12日　Zagreb 郊外（Z 宅）

次のホストＺは、ザグレブから車で1時間ほど離れた田舎に家を建てているところで、まだ改装中だったのですが泊めてもらうことができました。周りは一面のトウモロコシ畑で、静かにゆったりとした時間を過ごすことができました。チーズ作りをしているユダヤ人のＲもこの家に滞在していて、一緒にご飯を食べたり話をして、とても楽しい時間を過ごすことができました。ユダヤの話、チーズの話、クロアチアの話、日本の話、話は尽きず夜遅くまで語り合いました。

8月12日～15日　Zagreb (D & N 宅)

Ｄと Ｎは家族を大事にするホストで、近くに住むお孫さんたちとの時間をとても大切にしていることがよく伝わってきました。また、家から歩いて5分の湖に毎夕泳ぎに行くらしく、私も一緒に日没の水泳を楽しみました。D は熱狂的なサッカーファンで、サッカーパブ？に地元ザグレブのチームとハンガリーとの対戦を応援に行くと言うので、一緒に連れて行ってもらいました。2～30人いる客の中で私だけが唯一の女性かつ日本人で随分目立っていましたが、「大阪といえばガンバ大阪だよね！」とすぐに受け入れてもらい、ザグレブの熱狂的ファンとのサッカー観戦は貴重な体験となりました。N は料理が得意で、おいしいクロアチア料理や手作りのジャムなどおなかいっぱいになるまでご馳走してくれました。念願のプリトヴィチェ湖畔国立公園にも行くことができました。想像していた通り、公園内は湖と滝がいっぱいで、6時間ほどハイキングをゆったりと楽しむことができました。泳いでいる魚や水底が見えるほど透き通った水がエメラルドグリーンに光る景色は、本当に絶景でした。

２人にはユーゴスラビアの内戦の話もたくさん聞かせてもらいました。戦争が始まると、生活が全く変わってしまい、自由がなくなったこと。それまではそうではなかったのに、やたらと「われわれはクロアチア人だ！」と愛国心を煽るようなメディアが増えたこと。それまで仲良くしていた近所の人たちとも、出身地の違い、考え方の違いで関係が悪くなってしまったこと。5年間の戦争で、友人や自然など多くの大切なものを失ったこと。戦争が終わったときには国土は荒れ、国内の資本はほとんど海外の豊かな国に買収されて、今クロアチアに国の企業や工場、銀行がなく、ほとんど海外の資本になってしまい経済に苦しんでいることなどを話してくれました。世界中で自国の利益のみを優先し、他国や他民族を悪く言うことで国民の憂さを晴らし、右傾化が懸念される国が増えている今、クロアチアのホストの話は他人事とは思えませんでした。

8月15日～17日　Ljubljana リュブリャナ（M & T 宅）

ザグレブから列車で約2時間、隣国スロヴェニアの首都 Ljubljana リュブリャナに着きます。スロヴェニアは人口たった200万人、首都のリュブリャナから1時間車を走らせればアルプスの山にも、湖にも、そして2時間でアドリア海のビーチや島も楽しむことができるという、小さいながらも豊かで美しい国です。首都の中心部は車両の乗り入れが禁止されており、いわゆる歩行者天国なので安心して街歩きを楽しむことができました。私がお世話になっていた間は、Ｔがアルプス登山中でＭ一人だったのですが、車で1時間ほど離れたところにある2人のサマーハウスにも泊まりに行きました。自然が

大好きな M と一緒に、薪で料理したり、井戸に水汲みに行ったり、夜はキャンプファイヤーをしながらふくろうの声を聞いたり、裏山にキノコ狩りに行ったりと、スロヴェニアの自然を心ゆくまで満喫できました。スロヴェニアでは、サマーハウスを持っていることはきわめて普通のことらしく、「周りの友人はだいたいみんなサマーハウスを持っている。2軒持っている友人もいるよ」と言っていました。

また、M にも戦争の話をたくさん聞きました。戦争がいかに人の心を変えてしまうかということ、話し合いで解決するべき政治の問題が、人を殺しあう戦争に知らず知らずにすりかわってしまうことの恐ろしさ。同じ人間であるはずなのに平気で殺し合えるようになるのは、わたしたちが簡単に政治や世論に操られていくからだという話に、思わずぞっとしました。

8月17日～21日　Ljubljana (B & S 宅)

次のホストは7歳、9歳、11歳のかわいいお子さんがいました。コントラバス演奏者のお母さんの影響か、3人それぞれバイオリン、トロンボーン、ピアノを習っており、ハープシコードを弾くお父さんも含めてまさに音楽一家でした。仕事や子どもの習い事で忙しい中、リュブリャナから車で1時間ほど離れた M マリボルのお祖母さんの家に行って町を案内してもらいました。庭で採れたワイルドベリーを使った手作りアイスクリームがとっても美味しかったです。どうしても行ってみたかった、ブレッド湖にも行くことができました。首都リュブリャナからたった車で1時間のところに、おとぎ話からそのまま出てきたような絵画のように美しい景色がありました。湖の周りは遊歩道が整備されているので、だれもがのんびり散策できます。しかしいい意味で私の予想を裏切り、このブレッド湖は泳ぐ人、カヌーする人、サップする人、走る人、サイクリングする人と、スポーツを楽しむスロヴェニア人でいっぱいでした。また、ブレッド湖からバスで40分ほどのところにある、ボヒニュ湖にも行きました。ここも、アルプスの雪山を背にしたとっても美しい湖なのですが、周辺は湖水浴やサイクリングを楽しむ家族連れでいっぱい！スロヴェニア人のスポーツ好きがよく分かると同時に、(こんなに気持ちのよい気候と自然に恵まれていたら、誰だって体を動かしたくなるだろうなぁ)と、本当にうらやましくなりました。帰国の前日、「圭子の最後の夜だからね」と、アルプスから帰ってきたＴとＭが食事に誘ってくれました。二人がよく行くカフェやバーで深夜までワインを楽しみ、これまでの旅行の話などで盛り上がりました。初めて訪れた国で、初めて出会った人にもかかわらず、まるで昔からの友人のようにうちとけて話ができることの幸せをしみじみ感じた夜でした。

今回の旅行では、6軒のホストにお世話になりました。小さなハプニングはいくつかあったのですが、そのたびにホストの親切に助けられました。どのホストも仕事をしながらも私を受け入れ、少しでもいろんな経験ができるようにと心配りしてくれました。旅行に行く前、私はクロアチアとスロヴェニアのことをあまり知らず、(ちょっと昔にユーゴスラビアってもめてたところやなぁ)くらいの認識だったのですが、出会いに恵まれてホストの方々から内戦の話を聞くにつれて、いろいろと考えさせられたり、気付かされたりしました。(もっとちゃんと相手の国のことを知ってから来るべきだったな)と反省もしました。

じっくりと話をしたホストが、みな口を揃えて言っていたのは「自分の頭で考えないといけない」ということです。国やメディアの流す情報に流されず、自分でよく見て聞いて考えること大切さを改めて教わりました。また、自分

にも他人にも誠実に正直に生きること、自分にできることがあれば些細なことでもそれを実行していくことが大切なんだよと語ってくれたホストもいました。今回の旅もたくさんの素晴らしい出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。世界の平和と友好を願うサーバスの活動が、もっともっと広がっていくことを願うばかりです。

最後に、貴重な経験の機会を与えてくれるサーバス活動と、その運営に携わる全ての人々にお礼を申し上げて旅のレポートといたします。本当にありがとうございました。

第9回東アジア会議　　京都市　H.T

モンゴル（ウランバートル市　テルレジキャンプ場）で 7 月 15 日（月）～18 日（木）第 9 回東アジア会議が開かれ、日本からは 9 名が参加しました。会議以前のモンゴルの会員数は 6 名でしたが、会議が始まるまでに 10 名と言う目標を立派に果たされ、10 名の会員が総力を挙げて素敵なプログラムを進めて下さいました。その中には日本との交流を通じてメンバーになった人も多く、久しぶりの再会を喜び合いました。夏休み中でモンゴル会員の子供たちの参加も多いでした。

7 月 15 日　ウランバートル市のホテルにて日程を確認後、2 時間ほどバスに揺られて自然一杯のテルレジキャンプ場へ。昼食の後、ゲルにてオープニング、参加者全員の自己紹介と各国の活動報告を行いました。その後、屋外で交流、モンゴルは若い会員さんが多く、元気いっぱいのスポーツプログラム、高齢者の日本人は必死に頑張ったという感じでしたが、何よりも自然の中というのが魅力でした。羊の毛でのフェルト細工も皆工夫を凝らしてユニークな作品を仕上げました。夕食後は各国の衣装を着てファッションショーや歌、踊り、お国自慢に拍手喝采でした。

スポーツプログラム

7月 16 日　朝食後バスにて Red Rock リゾートへ。着後、エリアコーディネーター、会長は次の東アジア会議（時期、担当国）、次期エリアコーディネーターについて話し合いましたが、希望者は美しい自然の中で乗馬、馬はよく訓練されており、初めてでもとても楽しめました。昼食は　モンゴリアンバーベキュー、丸焼きにした羊が持って来られ、皆目を丸くしながらたくさん食べました。午後、バスにてウランバートル市へ帰り、伝統フォークコンサートへ。歌、踊り、楽器演奏を織り交ぜた素晴らしいモンゴルの伝統芸能を楽しみました。夕食は市の中心部に作られた障がい児センターで、モンゴルメンバーの手作り料理。障がい児センターについては、日本で交流会をした時に、いろいろ助言を頂いている日本の先生方に相談されていたので、それがカフェレストラン＆障がい者の手作り品のショップという形で実を結んだのかと、嬉しい気持ちでした。

ガンダン寺

7月17日、午前はモンゴルの歴史的変化等が展示されている国立博物館と、チベット仏教の中心的存在のガンダン寺へ。昼食は市の中心部という素晴らしいロケーションの 5 つ星ホテル「シャングリラ」で美味しいランチバイキング。午後はショッピング。終日ウランバートルでモンゴル訪問の総仕上げという感じでした。夕方宿泊のホテルに戻って、夕食をしながらクロージング。各国からの挨拶や出し物、日本はモンゴルとの交流でよく歌った「幸せなら手をたたこう」をモンゴルの子供たちと一緒に歌い、会場の皆も手拍子等で参加して下さり盛り上がりました。

7月18日は各自で朝食をしての流れ解散でした。

次の東アジア会議は 2022 年台湾で行われます。

私はモンゴルの会員が 10 名になってモンゴルもサーバスのメンバーカントリーになった事が一番嬉しいです。そして、日本サーバスは近畿支部が中心となって、モンゴルの障がい児たちの良き未来のために交流を行ってきましたが、H さんより、「日本としていたような障がい児家族交流を、次は東アジア会議加盟の他の国としたい」と希望が述べられ、韓国が引き受けられました。私たちの行ってきた事が、このような形で実った事もとても嬉しいです。

（日本サーバス本部会報 2019 年 9 月号に参加者からの感想等、東アジア会議の詳しい報告があるのでご覧下さい。）

3.トラベラー受入れ報告

日本に興味がある D さん　　舞鶴市　K.Y

東舞鶴駅で待ち合わせ。D さんが、日本語が少ししゃべれることが分かり、ほっとしました。家に到着して、少し休んだ後、「あなたに、いくつか質問があります。」と日本語で、色々質問され、彼も自己紹介してくれました。しゃべっていて、楽しい人でした。旅の疲れで、少し眠りたいと言われ、少しお昼寝されました。夜は、主人と三人で、すき焼きをしました。主人と D さんは、海外のこと、幸せとは何かについて、一生懸命に語り合っていました。

翌日 AM6:30 朝食、AM8:00 出発して、天橋立へ。幸いいいお天気で助かりました。家から車で約 1 時間。到着して、まず、智恩寺でお参りして、D さんは　おみくじを買いました。「これは、どういう意味ですか？」とおみくじの中のお言葉を聞かれましたが、英語で説明できませんでした。次に、3.6km の松並木を二人で歩きました。D さんが思ったより、道のりが長かったみたいで、途中ベンチで休みながら歩きました。空気がとても気持ちがいいと、おっしゃられていました。リフトで展望台に上がりました。このあたりから、D さん、自分の持ち金が少ないことが、気になりだされました。展望台からの景色が、とても気に入られ、「ここに家を建てたい」とおっしゃられていました。二人で、またのぞきをしましたが、逆さに見た天橋立の景色は、とても美しかったです。展望台から降りて、ちょうど昼食にいい時間なので、うどん屋に入り、手打ちうどんを食べました。うどんが「とても美味しい」と食べられていました。その後、ATM 機を探すのですが、コンビニもなく、銀行でもカードが使えず。とりあえず、ボートできた道を戻り、また ATM を探し、ようやく郵便局でお金がおろせました。

その日の夜は、一人高校生が加わり、4人で、食事をしました。私の知人が、「外人さんが来ることがあったら、息子を呼んでやってほしい」と言われていました。

息子さんは、高校の国際科（？）にいますが、なかなか外人さんと触れ合う機会がないようです。夕食はみんなで、ピザをとって、食べました。高校生の Y くんが、目をキラキラ輝かせて、D さんと、日本語や少しの英語で、しゃべろうとする姿に、私はとても、感動しました。Y くんの好きな歌手や、行きたい国の話、今何に興味など、D さんと2人でしゃべっていました。D さんも、一生懸命、Y くんとコミュニケーションをとろうとしてくれて、とてもいい方だなあと思いました。

2 泊3日の短い時間でしたが、とてもいい時間を過ごすことができ、うれしかったです。

国際平和デーを祝う　　京都市　H.T

9月19日～21日　SpainのPeace Secretary、 AとJを受け入れました。 Aさんは日本でいう本部役員です。「スペインもサーバスメンバーは高齢化していて、若い人を勧誘するけれど、泊まる家の人は若くなく、何を話して良いかわからないと言うし、若い人は今日のステイ先、明日のステイ先を探す。サーバスのように 1 か月も前に計画するなんてしない。それでスペインはスペインの Web サイトを作ろうかとも考えている。ヨーロッパでは皆自由に行き来し、親睦は十分しているので、親睦目的のエリア会議としてはしていない。モロッコのサーバス活動が活発になるようにスペインがモロッコと連絡を取り合ったり、国際サーバスのユースも担当している会員がユース活動が活発になるように近くの国と連絡しあったり、必要な課題に応じて色んな活動をしている」等、色んな話をして下さいました。

彼女は Peace Secretary なので、来られる前から国連平和デーの 9 月 21 日に日本で何かそれに関する事をしている所があれば参加したいと言っていられましたが、特に紹介するような事が無いので、我が家にいられました。9 月 21 日、丁度ドイツのサーバスメンバーも来ていたので、21 日の朝食が Peace Breakfast になり、「日本・スペイン・ドイツとインターナショナルなメンバーで、国連平和デーを共にできてうれしい。世界が平和になるように」とメッセージを言われました。私は丁度核兵器廃絶を訴える国際署名（長崎、広島での被爆者が後世の人々が自分たちのように生き地獄を体験しないよう、自分たちが生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい）を持っていたので、説明をして署名していただきました。

国際サーバスの言われる Peace Dinner（我が家では Breakfast）を体験したり、学ぶ事の多いゲストでした。

ディホストをしました　　交野市　K.K

ドイツに住むブラジル出身の L は、日本語を勉強する為に2週間京都に滞在中ということで、9月21日に大阪でディホストをしました。製薬会社に勤める彼女は数年前に仕事で来日したことがあり、日本に興味を持ったそうです。数ヶ国語を話す L は語学が好きで、日本語もとても流暢でした。2週間くらい自分のホリデイに外国で短期語学留学をするのが好きと話すＬは、今回は、二人のお子さんと旦那さんをドイツに残しての短期留学です。旦那さんも先日趣味のサイクリングで2週間アルプス旅行をしたそうです。いつもそうやって、交代で自分ひとりの休暇も楽しむと聞いて、びっくりと同時にいい夫婦だなと思いました。日本から帰ったら、今度は家族4人でギリシャで3週間くらいホリデイを過ごすと聞き、（日本と違って、休みが多いなぁ）と羨ましくなりました。大阪では、彼女の希望で道頓堀をぶらぶらしてたこ焼きを食べた後、梅田で晩御飯を食べました。彼女が暮らすドイツの写真を見ながら、行ってみたくなりました。

Servas in Japan

Dr.LS

June 17, 2019

When we were planning our trip to Japan, our friend K told us that Servas members and Servas hospitality in Japan are wonderful, and he is right! We are at the end of our third Servas visit, and we have met such friendly and helpful people, learned so much we would not learn on a tour or on our own, and seen and enjoyed a lot of things that we would never have found on our own! In the Lake Suwa area, N and H showed us the famous Suwa shrine, as well as some beautiful temples and gardens, while also sharing the fun of the conveyor-belt sushi experience! N and our next hostess, S in Kariya, wrote out very precise instructions for us so we would not take the wrong train! This is so helpful for us, because as we watch the stations speed by, we know what to watch and listen for! S and her friend H provided us with a wonderful day in an elementary school, where we had fun and relived the joy of teaching while practicing English with the very sweet students. And I tried tie- dye, although 1 didn't follow instructions well, and mine won't be quite 'regulation'. I also had the fun experience of an onsen, including dashing through the rain to an outside pool. We also had a lovely dinner with local Servas members and some of them joined us for breakfast and a trip to a pottery village, where we had a traditional lunch in a fascinating old building. Then S put us back on a train with very specific instructions, which we followed well enough to find T and K in Okubo, near Kyoto. Along with T's 90-year-old mother, they have made us welcome, taken us to see the lovely "Spring-gushing temple" in the woods, stuffed us with sushi and other delights, taken us to Nara, and encouraged us to visit the "tea city" of Uji, with its world heritage Byodoin Temple and Ujikami shrine, which we did today. We cannot thank all of these people enough but our hearts are full with new friendships as well as our heads dizzy with new learning! And we still have two more hosts to visit! We can only hope that many Japanese Servas people will visit us so we can try to show them as much generous hospitality as we have received here in Japan.

4.お知らせとお願い

支部長　A.K

＊次の総会は 2019 年 12 月 22 日です。詳しくは追って連絡しますので宜しくご予定下さい。

＊2019 年度サーバス年会費（一般3000円学生2000円休会者B1000円）をまだ送金されていない方は、至急郵便振替払い込み　口座（会員専用の日本サーバス Web ページの近畿支部会報を参照）へ宜しくお願いします。

＊グループメール GMO から Google グループメールに移行しました。

以上